

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 55



プエルト・マデロ地区 ブエノスアイレス

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2009年12月

ごあいさつ

- 日本在任5年を終えるに当たって.....1
- 変貌するアルゼンチン農業.....4
- アルゼンチンの選挙制度.....5
- 中間選挙後のアルゼンチン情勢
  - ～アルゼンチン政治経済短信～.....7
- 日亜経済合同委員会 1月会催予定.....8
- Resumen en castellano.....9

協会の活動案内

- 「タンゴ音楽の集い」が、いよいよ再開に.....9
- 協会の活動報告
  - ～アルゼンチン建国200周年記念行事
    - 策定作業支援活動～.....10
  - ～同建国100周年(1910年)
    - 記念行事への日本側参加実績～.....10
  - ～NHK-TV「坂の上の雲」が、いよいよ放映..10
  - ～第47回アルゼンチン共和国杯開催.....11

## ごあいさつ

### —日本在任5年を終えるに当たり— (邦訳)

ホルヘ・A・オセラ

外交官として日本に赴任して5年が過ぎました。帰国を目前としたこの時期に、日本での経験について所感を述べる機会を与えて下さいました日本アルゼンチン協会に心から感謝申し上げます。今の気持ちを簡潔に表しますと、それは「ありがとう(gracias)」そして「ごめんなさい(perdón)」の二言に尽きます。

この素晴らしい国(日本)で外交官として働く名誉と特権を与えてくれた祖国アルゼンチン共和国に感謝しています。また、私を信頼し、重要な任務を任せてく

れたアルゼンチン外務省に感謝します。そして家族に対しても感謝の気持で一杯です。同行した家族は苦勞も多かったと思いますが、日本での日々を十分に楽しんでいました。家族の協力なしには、日本で外交官としての責務は果たせなかったと思います。最後にアルゼンチン協会の会員の皆様に心より御礼申し上げます。私のことを理解して下さいありがとうございます。(お礼を申し上げるのが最後になってしまいましたが、感謝の気持に変わりはありません。) 大使館は日亜関係

の強化を目指し、日々様々な活動を行っておりますが、ひとつひとつの目標を実現する上で、協会と密に連絡を取り、意見交換を行うことが役立っております。日本アルゼンチン協会の果たす役割は大きいと思います。来年、アルゼンチンは建国200周年を迎えます。様々な記念行事を策定中ですが、このテーマは協会と意見交換を行っていくのにふさわしいと思います。

私は、日本アルゼンチン協会に期待しています。会員の皆様の両国に関する知識、経験、文化への造詣には特筆すべきものがありますし、なによりも、アルゼンチンへの深い愛情を感じます。アルゼンチンへの憧憬、愛情を軸として存在している日亜協会が、両国間の関係強化に大きく寄与することは疑う余地がありません。日亜関係強化を目指す挑戦が本格化するのこれからですが、両国の持つ潜在力、経済分野での補完性、共通の価値観がその基盤となるはずです。日本とアルゼンチンは民主主義、正義、平和、国際社会での安全保障、人権、軍縮などに関して同じ価値観を共有しています。

来日して5年。日亜関係の強化を図るため、様々な活動を行い、新しいプロジェクトに挑戦し、夢中で仕事をしてきた5年間でした。外交官として常に研鑽を積み、同時に日本の文化や習慣を学ぶ日々でした。私にとって毎日が挑戦でしたが、皆様から多くの助言、思いやり、愛情を頂いた5年間でした。

私は、五年間の日本駐在について自己採点するつもりはありません。それは私の役割ではないからです。私はこの五年間、ひとつの信念に基づいて行動し、イニシアチブをとり、発言してきました。その信念とは、アルゼンチンの国益を保護し、海外におけるアルゼンチンのイメージを向上させ、日亜関係の強化を図ることであり、他意はありません。そのことをご理解頂ければ十分です。

帰国が近づくと喜びと悲しみが交錯し、嬉しいのか悲しいのか、その境界線がどこにあるのか、わからなくなることがあると思いますが、私は今、大きな喜びだけを感じています。家族や愛する人々と再会する喜び、祖国に戻る喜びです。しかし、日本で過ごした素晴らしい5年間を思い出す時、それ以上の喜びを感じます。日本語は習得できませんでしたが、日本で学んだ全てを私は胸に刻み、生涯忘れないでしょう。尊敬、団結、忍耐、仕事への情熱、誠実さ、人の意見に耳を傾けることの大切さを日々の仕事において心に留め、実践しております。

一方、私のやり方が日本的な考え方にそぐわなかったり、私の発言が誰かを傷つけることがあったとしたら、心からお詫び致します。私の性急な仕事の進め方が、日本的な時間の流れ、やり方にあわない場面があったとしたら、そのこともお詫びします。故意にそうした方法を選んだわけではありません。良好な二カ国関係を築く為、限られた時間、方法の中で目的を遂行しなければならなかった結果です。

旅立ちの時がきましたが、お別れではありません。私は帰国しますが、皆様のことを決して忘れないでしょう。新たなスタートを切る為に、私は旅立ちます。外交官としてまた新たな日々が始まりますが、日本での経験を活かして頑張ります。アルゼンチン、または日本で再び皆様とお会いするのを楽しみにしております。私たちは固い友情の絆で結ばれています。私たちの友情がこれから益々深まっていきますように。日本とアルゼンチンの人々の幸せの為、共に頑張っていきたいと思います。

また、お会いする時まで。

ホルヘ・A・オセラ  
公使 在日アルゼンチン共和国大使館



オセラ公使（前列中央）、200周年事業ワーキンググループ会議の後

# A MODO DE DESPEDIDA

Jorge A. Osella

Agradezco a la Asociación NIPO-ARGENTINA por haberme dado la posibilidad de expresar mis sentimientos y vivencias en Japón luego de cinco años de gestión diplomática. Si tuviera que expresar en dos palabras estos sentimientos diría “gracias y perdón”. En primer lugar deseo agradecer a nuestra querida República Argentina para haberme dado el privilegio y el honor profesional de haberla servido en este gran país.

Mi agradecimiento también a las autoridades del Ministerio de Relaciones Exteriores, Comercio Internacional y Culto por haber confiado en mí ante las altas responsabilidades encomendadas. Vale el agradecimiento también a mi familia, quizás quienes mas sufren y también se benefician de este tipo de experiencias. Sin el apoyo de ellos vanos hubieran sido mis esfuerzos para hacer una digna gestión en Japón.

Finalmente, y no por ello menos importante, gracias a todos los miembros de la Asociación Nipo-Argentina por el apoyo recibido, por la comprensión otorgada. El contacto fluido, el intercambio de ideas, el diálogo han sido factores importantes en la consecución de objetivos trascendentes para el afianzamiento de las relaciones bilaterales entre Japón y la Argentina. En este sentido la Asociación Nipo-Argentina tiene un rol importante que cumplir, y los festejos del Bicentenario Argentino son una oportunidad única para seguir intercambiando ideas sobre formas y medios para definir una agenda de actividades para tal ocasión.

Nunca he dudado del potencial de esta Asociación que se destaca por su experiencia, conocimiento de la cultura y características de ambos países pero especialmente por su Amor hacia la Argentina. Esta admiración y amor que todos ustedes tienen hacia la Argentina es el eje conductor y razón de ser de esta asociación que sin duda contribuye a fortalecer las relaciones bilaterales. El desafío para mejorarlas es grande y debe ser basado en

la complementariedad de las economías, en el potencial de cada país y en el hecho de compartir valores, tales como: la democracia, la justicia, la paz y la seguridad internacional, los derechos humanos, y el desarme, entre otros.

Cinco años han pasado desde mi arribo a Japón, cinco años de intenso trabajo, realizando propuestas distintas y creativas para fortalecer los lazos de unión entre ambos países. Cinco años de continuo crecimiento profesional. Cinco años de aprendizaje sobre la cultura y costumbres de Japón. Cinco años de desafíos constantes, pero cinco años de haber recibido consejos, comprensión, cariño por parte de todos ustedes.

No seré yo quien realice una evaluación de mi gestión en Japón, no me corresponde ni lo haré. Sólo podré afirmar que cada iniciativa que he tenido, cada acción realizada, cada comentario y cada palabra pronunciados, los he realizado de buena fe, sin terceras intenciones. Mi única intención ha sido la defensa del interés nacional, la mejora de la imagen de la Argentina en el exterior y el único objetivo de acercar y fortalecer la relación bilateral.

En estas circunstancias, por lo general, es común tener sentimientos encontrados, de alegría y pena que se mezclan, sin a veces diferenciar cual es cual. Por mi, no tengo sentimientos encontrados, tengo una gran alegría, una gran alegría por reencontrarme con mi familia y seres queridos, siempre es bueno volver a la Patria. Pero mi alegría es aún mayor cuando pienso en los cinco maravillosos años transcurridos en Japón. Todo lo que he aprendido (con excepción del idioma) de ustedes, de su cultura y sobre vuestro país, lo tengo fuertemente guardado en mi corazón y lo preservaré allí por el resto de mis días. Cuestiones tales como el respeto, la solidaridad, paciencia, dedicación al trabajo, seriedad, el saber escuchar, las he incorporado como parte de mi labor diaria.

Por otra parte, pido perdón si en algún caso no he mantenido las formas japonesas, si en algún caso herí a alguien con comentarios que he realizado. Pido perdón si mi ansiedad y ejecutividad atentaron contra los tiempos y formas japonesas. Todo ha sido no intencionado y con el ánimo de alcanzar objetivos en forma y tiempo y para bien de la relación bilateral.

Es momento de partir pero no de dejarlos, es momento de volver pero no de olvidarlos, es momento de partir para volver a empezar. Una nueva etapa en mi vida profesional está comenzando, con nuevas responsabilidades en la

cual pondré en práctica mi experiencia en Japón. Dios nos permita volver a reencontrarnos en Argentina o en Japón y de esa forma seguir consolidando esta amistad surgida, y seguir trabajando para bien y felicidad de nuestros pueblos.

Hasta pronto, Jorge A. Osella

13 Noviembre de 2009.

Jorge Osella

Ministro Embajada Argentina en Japón.



## 変貌するアルゼンチン農業

井尻 收一

目の前に広がるのは、真っ青な大空と、地平線まで続くみどりの絨毯。アルゼンチンの大穀倉地パンパは、そのスケールで人々を圧倒する。

よく目を凝らして見てみると、みどりの大地は、造花のように同じ背丈、同じ枝ぶりの大豆畑だ。その枝には、びっしりと形のいい大豆が実っている。遺伝子組み換え大豆がパンパの風景を変えた。かつてはのんびりと牛が放牧されていた大草原は、牧畜よりも収益の上がる大豆畑に次々と塗り替えられている。同じ形をして生え揃い、雑草一本見当たらない大豆畑は、自然の摂理を拒絶した工場のような。春には巨大トラクターが大地揺るがし、秋には大型コンバインが唸りをあげる。生産量が4千万トンにも達した膨大な量の大豆は、国内の鉄道、トラックの全能力を投入して、世界最大規模の搾油設備が林立するパラナ河輸出ターミナルに集められる。そして、巨大サイロから次々と穀物船に積み込まれ、世界各地に輸出されていく。まるでオートメーション工場のように。

アルゼンチンの農業は農業ファンドの登場とともに大きな変貌を遂げた。97年のアジア金融危機を引き起こし、各国政府との壮絶な為替介入競争に打ち勝ったジョージ・ソロスを始めとする名だたるファンドが、農業に着目し、アルゼンチンに雪崩れ込んできたのだ。古来より農業には生産リスク、天候リスク、相場リスクが付き物だ。農業ファンドは金融界で養った資金調達力、リスク管理能力、市場分析ノウハウ等に加え、最先端の農業技術や遺伝子工学等を駆使し、とかくリスクが高く、低収益と思われていた農業を、安定した

高収益事業に作り変えようとしている。

手塩にかけて育てた作物も収穫前に病害虫にやられれば大きな被害を受けてしまう。実りの時期に低温や少雨が続けば、作柄は低迷する。農家は常にリスクに怯えてきた。農業ファンドは、これら生産リスクを低減するため、病害虫や天候不順に強い遺伝子組み換え作物を積極的に導入している。種子固有の優劣はなくなり、均一した上質の農作物が量産できる。単位面積あたりの収穫量も大幅に増加、農薬散布回数が少なく済むため、生産コストも大幅に軽減できる。

しかし、いかに遺伝子組み換え作物であっても、大規模な旱魃や冷害にやられればひとたまりもない。大規模農家であっても所有する農地はある地域に限られる。農地が一箇所にかたまっているため、天災が来れば農家は全てを失ってしまう。農業ファンドは天候リスクを軽減するため、農地を広い地域に分散して所有している。ある地域が天災にあっても、他の地域が大丈夫なら、全ての農作物を失うことはない。農地を分散すれば、天候リスクも分散できるのだ。大手の農業ファンドは、アルゼンチンのみならずブラジルなどメルコスール地域、さらにはボリビアあたりまで対象地域を広げている。地球温暖化の影響なのか、いまや天候不順が当たり前の世の中では、今まで天候被害が少なかったと安心して土地などない。農業ファンドは、潤沢な資金で広大な農地を買収したり、地主から農地を借り上げ、リスクの分散を進めている。大手ファンドの中には数十万ヘクタールの農地を所有しているものもある。

こうして漸く無事収穫できても、農作物を販売する際には相場リスクや商品リスクに晒される。ある商品が世界的に豊作だったり、消費低迷が続けば価格は暴落する。投機マネーや為替の動向次第で商品価格は大きな影響を受ける。そこで、農業ファンドは穀物だけではなく、綿花、酪農、養鶏、さらには砂糖からエタノールにまで生産アイテムを多様化し、収益のブレを最小化しようとしている。

つまり、農業ファンドの登場によって、アルゼンチン農業は、金融工学を基礎としたポートフォリオ・マネージメントを駆使し、リスク管理された近代産業に様変わりしようとしているのだ。

従来、カーギル、ADM、ブンゲ等のいわゆる穀物メジャーは、穀物ターミナルを所有することで穀物の出口を押さえ、リスクを負うことなく、穀物資源を一手に掌握してきた。生産や天候などの農業リスクは農家に、相場や商品リスクは先物市場にヘッジし、利益率

は低い、確実に収益が上がる構造を築いてきたのだ。薄利多売の穀物メジャーは、穀物の取扱高をいかに増やすかで優劣が決まる。そのために巨大なターミナルの建設競争を繰り返してきた。さらに、農家を囲い込むために、生産物を担保にファイナンスを供与するなど、農協顔負けの木目細かいサービスを提供してきた。

しかし、ここ数年の穀物価格の高騰で、穀物メジャーよりも農家の取り分が大きくなってきた。そこに目をつけたのが農業ファンドである。農業ファンドの出現で、農業に資金と人材が流れ込んできた。穀物メジャーも、うかうか出来ないと見え、自ら農業ファンドを興したメジャーもでてきた。今後は生産部門のみならず調達、流通、加工、さらには輸出にも新たな変革がもたらされる可能性がある。世界の最先端の農業を目指して走り出したアルゼンチンの今後に注目していきたい。

(いじり しゅういち:三菱商事(株)業務部米州室長)



## アルゼンチンの選挙制度

ヴィヴィアーナ・M・ソーサ  
早稲田大学4年 アルゼンチン留学生

ヴィヴィアーナ・M・ソーサさん  
(Srita. Viviana Malvina Sosa  
Waseda University)



### • 現在のアルゼンチン

2007年12月、アルゼンチンでは史上初の女性大統領、クリスティーナ・フェルナンデス・キルチネルが選ばれた。彼女は、アルゼンチン史上、選挙による初の女性大統領であり、大統領夫人が大統領となった最初の例でもある。(大統領夫人が大統領になった最初の女性はイサベラであったが、イサベラはペロン大統領死去による昇格であって、選挙によるものではない。)また選挙における彼女の得票は、45%と大変高い得票率を記録した。

### • アルゼンチンの大統領選挙

アルゼンチンは大統領を元首とする連邦共和制国家であり、大統領が行政のトップを務める。上下二院の複数政党制議会を持ち、大統領、副大統領は国民による選挙で選ばれる。

日本の政治体制とは、大統領が国民の直接選挙で選ばれ、その下に各省庁の大臣が存在する点で大きく異なる。

選挙制度に関しては、1912年に秘密選挙が定められ、また同時に18歳から70歳までの全ての国民に投票が義務付けられた。

投票時の選挙区は首都であるブエノスアイレス市と23州の計24区で構成されている。各選挙区は地域ごとに細分化され、最終的に投票者は性別および名字の順に450人ずつのグループに分けられる。

選挙を通じて大統領を元首とする連邦共和制国家の代表者と、上下二院制の複数政党制議会のメンバーを選出する。大統領、副大統領共に直接選挙で選ばれ、任期は4年である。大統領と内閣は行政権を行使し、内閣の長は大統領によって任命される。

大統領と副大統領は選挙によって選出されるが、その際、大統領と副大統領を組み合わせる必要がある。つまり、違う政党の大統領、副大統領候補を組み合わせることはできない。また一度の選挙で当選確定となるのは、45%以上の得票があった場合、または1位の政党が得票の40%を得て、2位の政党、候補者との票差に10%以上の開きがあった場合に限られる。

こうして漸く無事収穫できて、農作物を販売する際には相場リスクや商品リスクに晒される。ある商品が世界的に豊作だったり、消費低迷が続けば価格は暴落する。投機マネーや為替の動向次第で商品価格は大きな影響を受ける。そこで、農業ファンドは穀物だけではなく、綿花、酪農、養鶏、さらには砂糖からエタノールにまで生産アイテムを多様化し、収益のブレを最小化しようとしている。

つまり、農業ファンドの登場によって、アルゼンチン農業は、金融工学を基礎としたポートフォリオ・マネージメントを駆使し、リスク管理された近代産業に様変わりしようとしているのだ。

従来、カーギル、ADM、ブンゲ等のいわゆる穀物メジャーは、穀物ターミナルを所有することで穀物の出口を押さえ、リスクを負うことなく、穀物資源を一手に掌握してきた。生産や天候などの農業リスクは農家に、相場や商品リスクは先物市場にヘッジし、利益率

は低い、確実に収益が上がる構造を築いてきたのだ。薄利多売の穀物メジャーは、穀物の取扱高をいかに増やすかで優劣が決まる。そのために巨大なターミナルの建設競争を繰り返してきた。さらに、農家を囲い込むために、生産物を担保にファイナンスを供与するなど、農協顔負けの本目細かいサービスを提供してきた。

しかし、ここ数年の穀物価格の高騰で、穀物メジャーよりも農家の取り分が大きくなってきた。そこに目をつけたのが農業ファンドである。農業ファンドの出現で、農業に資金と人材が流れ込んできた。穀物メジャーも、うかうか出来ないと見え、自ら農業ファンドを興したメジャーもでてきた。今後は生産部門のみならず調達、流通、加工、さらには輸出にも新たな変革をもたらされる可能性がある。世界の最先端の農業を目指して走り出したアルゼンチンの今後に注目していきたい。

(いじり しゅういち:三菱商事(株)業務部米州室長)



## アルゼンチンの選挙制度

ヴィヴィアーナ・M・ソーサ  
早稲田大学4年 アルゼンチン留学生

ヴィヴィアーナ・M・ソーサさん  
(Srita. Viviana Malvina Sosa  
Waseda University)



### • 現在のアルゼンチン

2007年12月、アルゼンチンでは史上初の女性大統領、クリスティーナ・フェルナンデス・キルチネルが選ばれた。彼女は、アルゼンチン史上、選挙による初の女性大統領であり、大統領夫人が大統領となった最初の例でもある。(大統領夫人が大統領になった最初の女性はイサベラであったが、イサベラはペロン大統領死去による昇格であって、選挙によるものではない。)また選挙における彼女の得票は、45%と大変高い得票率を記録した。

### • アルゼンチンの大統領選挙

アルゼンチンは大統領を元首とする連邦共和制国家であり、大統領が行政のトップを務める。上下二院の複数政党制議会を持ち、大統領、副大統領は国民による選挙で選ばれる。

日本の政治体制とは、大統領が国民の直接選挙で選ばれ、その下に各省庁の大臣が存在する点で大きく異なる。

選挙制度に関しては、1912年に秘密選挙が定められ、また同時に18歳から70歳までの全ての国民に投票が義務付けられた。

投票時の選挙区は首都であるブエノスアイレス市と23州の計24区で構成されている。各選挙区は地域ごとに細分化され、最終的に投票者は性別および名字の順に450人ずつのグループに分けられる。

選挙を通じて大統領を元首とする連邦共和制国家の代表者と、上下二院制の複数政党制議会のメンバーを選出する。大統領、副大統領共に直接選挙で選ばれ、任期は4年である。大統領と内閣は行政権を行使し、内閣の長は大統領によって任命される。

大統領と副大統領は選挙によって選出されるが、その際、大統領と副大統領を組み合わせる必要がある。つまり、違う政党の大統領、副大統領候補を組み合わせることはできない。また一度の選挙で当選確定となるのは、45%以上の得票があった場合、または1位の政党が得票の40%を得て、2位の政党、候補者との票差に10%以上の開きがあった場合に限られる。

得票率が条件を満たさない場合は1位と2位の候補者によって30日以内に決選投票が行われる。

### • アルゼンチンの議会選挙

下院は全部で257議席あり、任期は4年、比例代表制での選出となっている。選挙は得票数に応じて議席を割り当てる「ドント方式」が採用されている。ドント方式では各政党が候補者の書かれている選挙人名簿（ブロックリスト）を代理人に提出し、地域毎に投票が行われる。各地域選出の議員の数は人口に応じて決められ、投票者は支持する政党を選ぶことはできるものの、ブロックリスト上の候補者順位を変更することはできない。この方式は、アルゼンチンを含むラテンアメリカ諸国と日本、ヨーロッパの国々で採用されている。また、議席を獲得するためには各ブロックリストに対して最低3%の得票を得なければならない。

下院の主要業務は立法および法の審議である。また、戦争など有事の際には国家保護法などの設立を行う。

さらに、1994年以降は一般市民による新法案のプロジェクト書の提出が認められている。行政や司法において職務違反が発覚した場合、下院は、上院に告発することが出来る。そして、下院は法案を国民投票にかけることが可能である。

上院は全部で72議席あり、各任期は6年である。連邦首都区及び23州を各選挙区として、ブロックリスト（選挙人名簿）を元に直接選挙が行われる。各州ごとに選挙区で第1党から2名、第2党から1名の計3名を選出する。2001年10月に初めての直接選挙が実施されたが、それまでは州議会による間接選挙によって選出されていた。

上院の主要な機能は下院で可決された法案を審議することと、アルゼンチンが外国からの脅威にさらされた際に大統領の非常事態宣言の下で戒厳令を施行することである。その他の職務として、大統領が司法、行政の全権行使、軍事における人選を任命した際に、これを認定することなどがある。

国会審議は、3月1日から11月30日まで行われる。しかし、大統領令によってその他の期間でも臨時国会を開催することがある。

臨時国会の議題は大統領のみが決定できるが、通常国会においては各議員が決定し、また、審議が長引く場合には期間の延長も可能である。

アルゼンチンの法律では、司法、行政、立法の3権分立をうたってはいるが、現実には大統領の権限が強く、その機能が正確には働いていない。

(アルゼンチン留学生ヴィヴィアーナさんが、昨年作成されたものを寄稿して頂きました。)



アルゼンチンの国会議事堂



# 中間選挙後のアルゼンチン情勢

～亜国政治経済短信～

荒尾 保一

## 1. 中間選挙の結果

フェルナンデス大統領は、本年10月25日に行われることが法定されている上下両院の中間選挙を、6月28日に繰り上げて実施した。その狙いは、公式には世界的な不況が進行する中で、10月まで選挙戦を繰り広げることは自殺行為であるというものであったが、実態は、選挙が後になるほど与党にとって不利な戦いになることを惧れたものであったといわれている。

必勝を期した与党は、キルチネル前大統領をブエノスアイレス州から名簿搭載順位第1位で立候補させるほか、現職のシオリ ブエノスアイレス州知事やマッサ内閣首班を、当選しても議員就任を辞退する名目候補として、立候補させるという戦術に出た。

しかしながら、選挙結果は、与党の「勝利のための正義戦線 (FPV)」が全国で約30%の得票を得るに止まるというものであった。特に大選挙区のブエノスアイレス州、ブエノスアイレス市、コルドバ州、サンタフェ州、メンドサ州などで第1位の座を得ることができなかった。さらにキルチネル前大統領の出身地であるサンタクルス州においても敗北するという厳しい結果であった。

その結果、下院では、与党FPVの獲得議席は、非改選議席を含め102名となり、FPV以外の親キルチネル派の12名を含めても114議席に止まった。これに対し、野党は143議席と大幅に議席を増加させた。

また、上院においても、FPVの議席は、上院の定員の2分の1に相当する36名となり、絶対多数であったこれまでの状況を維持することができなかった。

さらに、中間選挙後、上下両院において、FPVの有力議員が同派から離脱しており、与党勢力の後退が一層明らかとなった。

なお、この選挙結果は12月1日より有効となるので、それまでは与党多数の状態が継続している。

## 2. キルチネル党首の辞任と内閣の改造

この選挙結果を受け、キルチネル前大統領は、正義党 (ペロン党) 党首を辞任し、党首の座をシオリ ブエノスアイレス州知事 (筆頭副党首) に引き継いだ。

また、内閣の改造が行われ、首相にアニバル フェルナンデス司法相が任命された。マッサ前首相は、休職をしていたティグレ市長に復帰した。また、経済相に

アマド ブドゥー国家保障機構総裁が任命された。司法相には、フリオ アラク前ラプラタ市長が任命された。これより先、オカーニャ厚生相が辞任し、後任にマンスール トゥクマン州副知事が任命された。その他、運輸長官など官僚レベルの交替も行われた。

かねてからINDECが発表するインフレ指数などの経済統計について、その信憑性が議論的となっていたが、INDECの所管を内国商業庁長官から経済相直属に移行するとともに、人事も一新された。

## 3. 政治対話の実施

フェルナンデス大統領は、上記の選挙結果を踏まえ、全てのセクターに、経済、民主主義、社会の3つのテーマにつき対話を行うことを呼びかけると述べた。

この方針に基づき、まずフェルナンデス大統領が、企業関係者及びモジャーノ CGT 労組書記長等との会談を行った。更に同大統領は、殆ど全ての各州知事及びマクリ ブエノスアイレス市長と会談した。

他方、ランダッソ内相は、最大野党である市民社会合意 (急進党、市民連合、社会党、コボス副大統領派等の連合) と会談した。同内相は、引き続き Union-Pro、連帯と平等、南プロジェクトなどの政党代表と会談した。

長い間紛争が続く農牧4団体については、アニバル フェルナンデス首相、ブドゥー経済相、ジョルジ生産相が会談した。

このような対話への動きは、当初各セクターから歓迎されたが、各セクターからの要望に対し、政府の回答は消極的で不満が続出した。急進党をはじめ、市民連合、ペロン党反キルチネル派、南プロジェクトなどの代表は、対話から離脱するとの声明を出し、対話は効果を挙げていない。

## 4. 議会の動き

8月に入り、同月に期限が満了する立法権限委任法 (政府に立法権限を委任する法律。輸出課徴金を政府が設定する権限を含む。) を1年延長する法案が可決、成立した。その際、FPVだけでは過半数に達しないため、中道左派勢力の協力を得なければならなかったが、その条件として、法律の一部を修正し、政府の権限の一部が縮小された。



また、亜国では早魃の被害が発生しているが、被害の大きいプエノスアイレス州などの農牧業を救済するための農業緊急法が、議員提案により成立した。

この法律に基づく救済策のうち、輸出課徴金を軽減する措置の一部について、フェルナンデス大統領が拒否権を行使し、その措置の恩恵を受けられない農牧業者が発生した。これに農牧団体が反撥し、8月末から8日間出荷停止などのストが行われた。

政府と農牧団体との間では、その後も交渉が行われているが、農牧団体から最も要望の強い輸出課徴金の軽減について、政府は強硬な態度を崩さず、農牧業者からは不満の声が出ている。このような状況の中で、10月、政府は農林水産省 (Ministerio de Agricultura, Ganaderia, Pesca y Alimentacion) を設立することとし、農水相にフリアン ドミンゲス下院議員を任命した。

そのほか、議会では、政府によるメディアへの規制を強化する放送法改正案が提案された。この法案については、議会で激しい議論が展開され、急進党など主要野党が反対したが、連帯と平等などの中道左派勢力の協力を得て可決された。メディアからの反撥が大きく、特に有力紙のクラリン紙と政府の対立が激しくなっている。

## 5. 経済の動向

2009年第1四半期(1~3月)の実質GDPは、設備投資、建設などが大幅に減少したことにより、前年同期比2.0%増、前月比0.1%増と成長幅が大きく減速した。そして、第2四半期には、遂に、前年同期比マイナス0.8%となり、2002年10~12月期以来のマイナス成長を記録した。なお、2009年上期(1~6月)では、0.6%のプラス成長であった。

工業生産、建設活動は、前年度比マイナスであり、貿易も縮小している。輸出は、月により変動があるが、おおむね30%程度減少している。輸入は、40%程度の落ち込みで、貿易収支はプラスを維持しているが、その額は大きく落ち込んでいる。

財政収支は、歳入が一桁台の伸びを示しているが、歳出が20~30%増加しており、プライマリー バラ

ンスは、黒字を維持しているものの、前年比80~90%減少している。

このような情勢の中で、新任のブドゥー経済相は、年内に国際金融市場への復帰を目指す政策を採っている。アルゼンチンは、IMFの債務を一括返済し、IMFからの干渉を排除するとの意向を示していたが、ブドゥー経済相は、G20の会合の際などを利用して、IMFのカーン専務理事と会談するなど関係改善の方向に進みつつある。また、カーン専務理事も、IMFは、アルゼンチンと正常な関係になりうると肯定的な発言を行っている。

アルゼンチンでは、2001年に、対外債務がデフォルトになり、その債務につき2005年に元本を大幅に削減して債務交換を行ったが、これに応じなかった債務(ホールダアウト債と呼ばれる)については、同年以降一切交渉を禁止する法律が制定されている。

ブドゥー経済相は、このホールダアウト債(約200億ドル)について、元本の大幅削減を条件に、新たに国債との交換に応ずると発表した。このため、再交渉を禁止した法律の修正が必要となり、そのための法案が議会に提出された。この法案は、与党のみならず、急進党などの賛成を得て、可決成立した。

政府は、メインバンクとの間で条件などの交渉を行っているが、この問題の解決が国際金融社会への復帰のキーファクターになると見て交渉を急いでいる。

## 6. 地デジに日本方式を採用

フェルナンデス大統領は、8月、日本からの首相特使増田寛也元総務大臣と会談し、アルゼンチンは、地上デジタル放送で日本方式の規格を採用する旨を伝え、覚書の署名が行われた。地デジ放送の規格は、日本方式のほか、米国方式と欧州方式が競争している。

地デジに日本方式が採用されるのは、ブラジル、ペルーに続き3番目で、今後南米各国に普及することが期待される。

(あらお やすいち：当協会常務理事)

## 日亜経済合同委員会 1月開催の予定

第22回日亜経済合同委員会が明年1月15日に東京商工会議所ビルにおいて開催されることとなった。これは、1月に「アジア中南米協力フォーラム (FELAC)」が日本で開催され、亜国ホルヘ タイアナ外相が来日する機会に、同委員会を開催することが決定したものである。

この日亜経済合同委員会は、佐々木幹夫会長(日本側)、アンヘル・マチャード会長(亜側)が議長及び副議長となり、タイアナ外相が基調講演するほか、両国政府及び財界関係者がスピーカーとなり、日亜関係の展望と関係強化の方策について討議が進められることとなっている。



# Resumen en castellano

por Irene Gashu

## Transformación de la agricultura en Argentina (p. 4)

por Shoichi Ijiri

La soja genéticamente modificada está transformando el paisaje de la pampa. Su producción ha alcanzado los 40 millones de toneladas. La introducción de fondos agrícolas de cobertura, ha hecho que la agricultura no sea una actividad tan riesgosa. Para atenuar las consecuencias de desastres naturales, los fondos tienen terrenos en muchas zonas diferentes. En la venta también hay riesgos por lo que se está tratando de diversificar los cultivos. En síntesis, la llegada de los fondos agrícolas ha hecho que la agricultura se transforme en una industria moderna.

## Sistema electoral de Argentina (p. 5)

por Viviana M. Sosa, estudiante argentina, 4to año, Universidad de Waseda

El Presidente de la Nación y el Vicepresidente son elegidos directamente por el pueblo. Hay dos Cámaras:

de Diputados (257, por 4 años) y de Senadores (72, por 6 años). Ejercen el poder legislativo pero desde 1994, los ciudadanos tienen el derecho de iniciativa para presentar proyectos de ley en la Cámara de Diputados. En Argentina existe la división de poderes pero el poder ejecutivo es muy fuerte.

## Argentina después de las elecciones (p. 7)

por Yasuichi Arao

En las elecciones legislativas de junio, ganaron los opositores. Algunos legisladores influyentes se alejaron del FPV. Néstor Kirchner renunció a la presidencia del Partido Justicialista y asumió Scioli. En el Gabinete también hubo cambios. La ley que delega facultades legislativas al gobierno fue extendida por un año. Se aprobó la ley de Radiodifusión que permite al gobierno un mayor control sobre los medios. En el primer semestre de 2009, el PBI creció 0,6% comparado con el mismo período del año pasado. Argentina adoptará el estándar japonés de televisión digital terrestre.



# 協会の活動案内

## 「タンゴ音楽の集い」

### 来春2月19日(金)再開へ

当協会主催の「タンゴ音楽の集い」を来春、2月19日(金)に再開の運びとなりました。

去る6月23日他界された故石川理事の名解説と映像で皆様に愛されました「タンゴ音楽の集い」を、当協会として故人の意思を引き継ぐべく鋭意準備しておりましたところ、この度、飯塚久夫氏(日本タンゴアカデミー副会長で当協会会員)の多大のご協力を頂きまして再開することが出来ました。

当日のプログラムは;

第1部 タンゴ黄金時代の名演・名唱を聴く

第2部 タンゴの魅力を映像で観る

の2部構成で、飯塚氏の解説案内で進める集いです。

ご期待ください。



# 協会の活動報告

## 1. アルゼンチン建国200周年 記念行事 —策定作業支援活動

来年2010年は、アルゼンチンにとって建国200周年に当たる重要な節目の年。

来年5月25日（建国記念日としてアルゼンチンは祝日）を中心として、アルゼンチンでは記念式典行事が予定されており、日本政府からも代表者が招待されて参列される予定。在日アルゼンチン大使館は、日亜両国間の一層の交流促進のため、日本においても来年一年間を通じて記念事業、イベント等を催すべくポルスキ大使を中心として、その計画策定作業に入っている。既に今春、同大使館内にオセラ公使を中心としたワーキング・グループが発足し、以来、毎月一回の検討会議をベースに行事内容の計画策定作業を進めている。

ポルスキ大使からの要請もあり、当協会からもこのグループに当協会役員3名の代表を送り、この作業に協力していること、先般9月30日発行の「協会だより(13)」にてご報告している通りです。

記念行事内容が具体化してくるのは、来春早々となりますが、現在検討段階として挙がっているものとしては：

- (1) 5月25日の公式行事
  - (2) 5月26日に200周年祝賀イベント（祝賀式+タンゴ音楽コンサート等）
  - (3) 大学関連イベント（ワーキンググループ内には、アルゼンチンからの留学生代表が2名（早稲田大学—女性1名、筑波大学—男性1名）参加しており、大学キャンパスでのイベントの計画を積極的に検討中。時期としては2010年1～6月。
  - (4) 8月にサンマルティン将軍胸像（横須賀の防衛大学校校内）への表敬行事。
  - (5) 毎年行われている行事に200周年の冠を付けて充実を図るもの：
    1. ボルヘス講演会（4月）
    2. ファッション・ショウ（4～5月）
    3. アルゼンチン・ワイン会（10月）
    4. 神奈川C.C.でのゴルフ大会（アルゼンチン・カップ 9～10月）
    5. 茨城県長田小学校イベント（6月2日「アルゼンチンの日」の催し）
- 計画が具体化次第、逐次ご案内します。

## 2. アルゼンチン建国100周年 （1910年）記念行事に於ける 日本側からの参加

1910年（明治43年）5月25日、アルゼンチンは独立建国100周年を盛大に祝い、全世界からの代表がブエノスアイレスに集まった。

100周年記念特別代表の資格を持って当時の日置公使が参列された。

日本海軍がアルゼンチンと非常に親近感を抱いており、（日露戦争における、アルゼンチンから譲り受けた軍艦、「日進（旧名モレノ）」、「春日（旧名リバダビア）」2隻の活躍）日本は、巡洋戦艦「生駒（イコマ）」を派遣し、5月20日ブエノスアイレスに入港。

「生駒」の乗員は、5月25日の観兵式に参加し、亜国最上層部並びに外国来賓の前で威風堂々の行進をして、群衆の歓呼を浴びた。記念式典の一環として、プラタ河口のコスタネーラ河岸で、各国からの参加艦のチームによる競艇が行われ、日本チームが優勝、2位アルゼンチン、3位ドイツのチームが占めた。

「生駒」は、100周年の記念の贈り物として、日露戦争時砲弾に貫かれた日進（旧名モレノ）の装甲板および春日（旧名リバダビア）のコンサート・ピアノを携えていた。

（以上は、元駐日アルゼンチン大使ホセ・R・サンチス・ムニョス氏著「アルゼンチンと日本友好関係史」（高畑敏男監訳、ジェットロ発行）から抜粋したものです。）

尚、1960年5月25日の建国150周年の式典にも、日本政府代表が、当時の駐ア津田大使と共に参列されている。現在ブエノスアイレスのパレルモ公園内にある日本庭園はその時記念して完成されたもの。

## 3. NHK-TV「坂の上の雲」が、 いよいよ放映

NHKが渾身の力を注いで作成した司馬遼太郎原作の「坂の上の雲」スペシャル・ドラマの第1回目が遂に11月29日（日）に放映開始されました。

皆様にはご高承のとおり、これは、司馬遼太郎が10年の歳月をかけ、明治という時代に立ち向かった青春群像を渾身の力で書き上げた壮大な物語です。

国民ひとりひとりが少年のような希望を持って、国の近代化に取り組み、そして存亡をかけて日露戦争を

戦った明治の物語です。

このドラマ作品に 込められたメッセージは、日本がこれから向かうべき道を考える上で大きなヒントを与えてくれるに違いないと、NHKは述べています。

これからの放送予定は次の通り。

第1部 全5回

11月29日、12月6日、12月13日、12月20日、  
12月27日、の各日曜日

NHK 総合テレビ 20:00 ~ 21:30

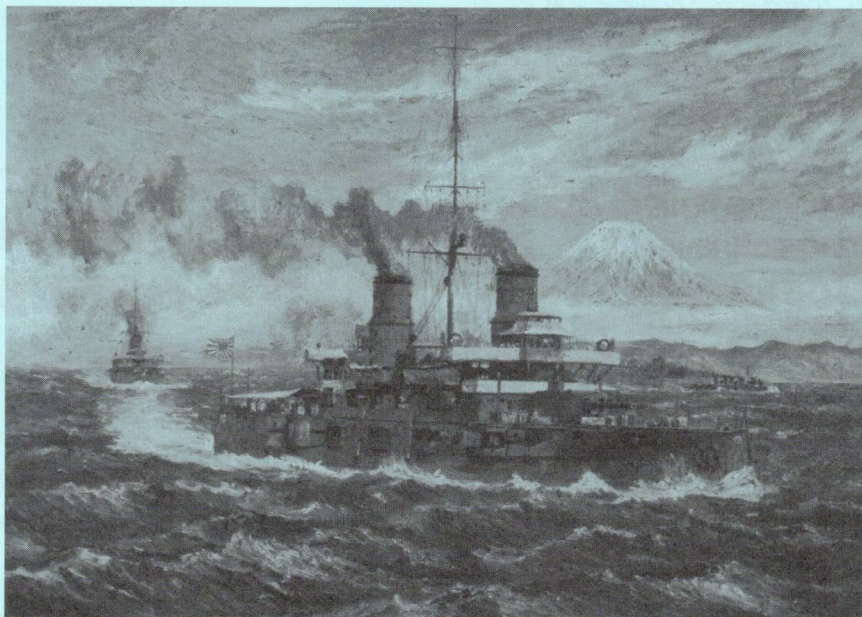
第2部

2010年12月放送予定

第3部

2011年12月放送予定

四国松山市には「坂の上の雲」博物館があり、この博物館に日本海海戦で活躍する巡洋戦艦「日進」「春日」の模型または絵・写真がもしあれば陳列したいとの博物館からの希望が、NHK 経由で当協会に寄せられたこともあり、鋭意調べたところ、当協会関係役員の尽力により、写真および「春日」の模型の所在メドがつき、これを実現すべくNHKに協力し、200周年のイベントの一つとなるよう考えているところです。



縦走する日進・春日の英姿

## 4. 11月8日（日） JRA 東京府中競馬場にて 第47回アルゼンチン共和国杯 開催

11月8日（日）、JRA主催の第47回アルゼンチン共和国杯（重賞G II レース）が東京府中競馬場にて行われた。

アルゼンチン大使館より招待を受け、当協会から鶴岡常務理事、的場理事および寺本理事が式典に参加した。

昼食前に、アルゼンチン国歌をオセラ公使他大使館関係者並びに招待客と斉唱。馬場中央のオーロラ画面にその斉唱の様子が映し出され、場内を埋め尽くした観客から喝采を浴びた。

47回の永きにわたる歴史をJRA 関係者のご尽力で継続出来ていることは、大変ありがたいことであり、来年のアルゼンチン建国200周年のイベントの一つとして盛り上げたいと考えています。



優勝したミラビランベリ号の関係者、オセラ公使と共に

## 12月7日、新旧公使歡送会を行う



前列向かって左から：マルタ・L・ガブリエローニ新公使、ホルヘ・A・オセラ公使、小原みなみさん（タンゴ歌手、当協会賛助会員）

後列向かって左から：藤村、新公使ご子息、大東郁子さん（大使館文化部秘書）、木島理事長、加藤、寺本



タンゴの好きなお客様と一緒に



### 協会ホームページの活用お願い <http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ（HP）の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、「ユーザー名とパスワードが必要です」との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」（半角英数）を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

## 編集長よりの御礼

在日アルゼンチン大使館のホルヘ・オセラ公使が、日本在任5年を終え帰国されることになり、本誌に寄稿頂きました。公使に於かれましては、当協会に対し常日頃のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

ご帰国後のご要職にての益々のご活躍を祈念申し上げます。

執筆、原稿につきましては、井尻収様、アルゼンチンからの留学生のヴィヴィアーナ・M・ソーサさんにご協力頂きました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、イレーネ賀集さん（当協会理事）に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。



## 冬季2010—1月～4月 「実用スペイン語」講習のご案内

アルゼンチン人講師によるスペイン語の基礎知識と実用会話能力を習得できる講習。

講習は全てスペイン語で行い、楽しく和やかに進められます。詳細は、同封の資料ご参照。

### 平成21年度 年会費納入のお願い

本年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日迄）の年会費のお支払が未だお済みになっていない方は、早めにお振込み戴きますようお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

### 日本アルゼンチン協会会報 第55号 2009年12月17日発行

発行人 木島 輝夫（当協会副会長兼理事長）  
編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）  
編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会  
〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1  
電話：03-3501-4684  
FAX：03-3595-3932  
E-mail：argentina@nifty.com  
URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート